

編集後記

- メッセージは名古屋市の山田雅雄副市長にお願いしました。下水道界をよく知る山田氏は、下水道展「10名古屋を迎え盛り上がる同市の上下水道の歴史を述べつつ、まちづくりにおける下水道の果たすべき役割について期待を寄せています。
- 本機構の取り組みの一環であるトップセミナーの概要を掲載しました。内容は、東京大学・妹尾堅一郎教授による「国際競争力のからくり～知を活かす知:公共事業ビジネスが学ぶべきこと～」。技術力で勝る日本の企業が、なぜ事業では負けるのか、世界で勝つためにはどうすればいいかを幅広い見識やデータをもとに鋭く分析しています。
- キャッチアップは、宮崎県・日南市の下水終末処理場に初導入された合流式下水道改善処理システム「簡易型繊維ろ過施設」について現地取材をいたしました。同施設は本機構との共同研究の成果によるもので、設置の簡易さはもちろん、すでに水質改善の効果も出ており、今後の詳細な検証が期待されます。
- エンジニアングレポートは、下水道施設電気設備の更新方法に関する研究と、下水処理場へのバイオマス（生ごみ等）受け入れに関する共同研究です。前者は社会的要請に応えた高付加価値化を考慮しつつ、老朽化設備を効果的に更新する手法を提示。後者は下水処理場で他のバイオマスを受け入れることのメリット、既存処理場への影響や導入手法等を整理し詳細に解説しました。

- 新研究テーマは、長寿命化計画・ストックマネジメントに関する調査研究を取り上げるとともに、補助燃料ゼロをめざした脱水・焼却システムに関する研究を取り上げました。
- トピックスは浜松市の人孔耐震化について、浮上防止対策マンホール4工法（フランジ、フロートレス、ハットリング、アースドレイン）について、実証フィールドに赴き、その概要とそこから浮かびあがってきたそれぞれの工法のメリットや課題について浜松市上下水道部に伺いました。下水道総合地震対策事業を実施している事業体は数多く、今回の浜松市の積極的な取り組みは工法選定の指標になるものとして関係者から大きな期待が寄せられています。
- インプット・アウトプットはアメリカ土木学会主催による「世界環境と水資源会議2010」への参加報告です。変化への挑戦というテーマを掲げた同会議は期間中に650のプレゼンテーションが行われました。
- ユーザーレポートでは、プレキャスト式雨水地下貯留施設を取り上げました。同施設は浸水被害の軽減はもちろん工期短縮にも資するプレキャスト式雨水調整池で、東京都下水道局と国土交通省とがコラボレーションしたことで話題になった下水道界注目目の取り組みです。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子どもの写真をシリーズとして紹介しています。

写真のお子さんは、今回メッセージをご寄稿いただいた山田雅雄副市長のお孫さん、山田亜衣音ちゃん（6歳）です。以前も本誌の表紙写真に登場したので、その成長ぶりに驚いている読者の方もいらっしゃるかもしれません。今年から小学生の亜衣音ちゃんは、この4月に埼玉県からおじいちゃんの住む名古屋市に隣接する愛知県大府市にお引越し。夢中なことは公園で友達と遊ぶこと。写真は東京ディズニーランドで撮影したものです。ポーズが様になっていますね。

題 字 財下水道新技術推進機構会長・中村満義
(鹿島建設株式会社代表取締役社長、(社)日本
土木工業協会会長)の揮毫によるものです。

下水道機稿情報

Vol. 4 No. 12

2010年7月<夏季号>

平成22年7月20日発行 発行者 中村満義
編集者 石川忠男
企画者 江藤隆

編集委員：中里卓治/神原浩/竹内徹也/
田之倉誠/南政慶/深尾俊示

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512